

私は、会社には「5人に対する使命と責任がある」と考えています。その5人に対する使命と責任を果たすための行動のことを、本当の「経営」と定義しています。

5人の一番目は、社員とその家族です。会社に所属している社員と、その社員を一生懸命支えている家族を幸せにすること。これが、社会の公器である会社が果たすべき、第一の使命です。(中略) 私が社員を一番目に挙げる理由は、お客様を感動させるような商品を創ったり、サービスを提供したりしなければいけない当の社員が、自分の所属する会社に対する不平や不満・不信の気持ちに満ち満ちているようでは、ニコニコ顔でサービスを提供することなどできるわけがないからです。(中略)

二番目は、外注先、いわゆる下請け企業の社員とその家族です。つまり、自分の会社の仕事をやってくださっている人々です。(中略) 下請けと呼ばれる会社の多くは、3Kとか5Kといわれる仕事や、発注元がやれない・やらない仕事をしてくださっています。(中略)

三番目が顧客です。お客さまに嫌われた会社には未来はないわけですから、顧客に対する使命と責任、つまり「お客様を幸せにする」使命と責任が会社にはあるわけです。(中略)

四番目は、地域社会、あるいは地域住民に対する使命と責任です。地域に住んでいる人々、あるいは周囲の自然などを含めた地域社会に対する貢献です。(中略)

五番目は、株主、出資者の幸せです。その会社を資金面・資本面で支援してくれている人々に対する使命と責任で、これには大きく分けて二つあります。一つは物的なもの、つまり、株主配当といった現金的な見返りです。もう一つは心的なものです。(後略)

「日本でいちばん大切にしたい会社」坂本光司著 あさ出版 2008年より引用